

最終講義

「留学の背景、経済学の展開及び日本経済の根底について」

ナギザデ・モハマド

2010年3月14日、ナギザデ・モハマド国際学部教授の最終講義が行われた。同講義は、ナギザデゼミOB・OGはじめ学部内外の教職員、学生を含めて150名が聴講した。以下はその時の同教授の挨拶である。

挨拶

私が日本の土地を初めて踏んだのは、イランと日本との間に国交が始まり、僅かに32年を経たばかりの時だった。世は今、「100年に一度」の大不況と騒いでいるが、思いおこせば世界を震撼させ、のちに世界大戦の遠因となる大恐慌が起こったのは1929年である。この年にイランと日本との間に正式な国交が樹立されており、誠に感慨深いものがある。その時私はまだ生まれていない。それから80年経った今、世界経済は2度目の大不況に見舞われている。こうして見ると、今回の大不況は「100年に一度」ではなく「80年に一度」ということになりはしまいか？

経済学を学んできた者にとって、今回の大不況については多々考えさせられるところがある。特に、私の滞在期間と併せて考えてみると様々に意義が深い。昨年国交80周年の記念の年を迎えたが、私の滞日とその半分以上に及び、イ・日関係の生き証人になるとは思わなかった。かくも長きに及んで日本に滞在したイラン人は少ないと思う。大使館勤務の身であれば12~13人分の任期期間に相当する。心の奥深くに刻み込まれた印象というものは、簡単に消し去ることは出来ない。

限られた時間の中ではありますが、来日の理由と日本の印象、経済学の展開、そして日本経済の根底などを同僚・大勢のゼミのOB・OGの皆さんを前にお話しさせていただきたいと思えます。

永年奉職した本校を定年退職するにあたって、かくも大勢お集まり頂いた皆さんの前で最終講義という機会をあたえられ、感謝に堪えません。

●最終講義プログラム●

2010年3月14日（日） 明治学院大学 白金校舎本館 1201 教室

10:00 開場・受付開始

10:30 開会のご挨拶

ナギザデゼミ OB・OG 会会長 遠藤 朝朗 (92K)

10:35 国際学部学部長挨拶

明治学院大学国際学部 学部長 阿部 望教授

10:40 ナギザデ教授プロフィール紹介

10:45 ナギザデ教授最終講義

「留学の背景、経済学の展開及び日本経済の根底について」

The Riddle of My Study Abroad, Development of Economics
and Foundation of Japanese Economy

